

東日本大震災での被災資料修理を支援



東京家政学院大学現代生活学部では、博物館概論等の座学を修得した4年生を対象に博物館実習を行っている。令和元年度の博物館実習は、前期に学内の生活文化博物館等を利用した実習を行い、続いて令和元年8月5日から9日までの日程で学外での集中実習を行った。学外の実習では、東日本大震災で被災した岩手県陸前高田市の博物館で、被災資料等の修理や整理を支援した。写真は、津波で被災した資料の塩分

東京家政学院大学

を除去する作業である。海水に浸かった資料の脱塩（安定化）を大規模に行ったのは東日本大震災後が初めてで、最新の資料修理方法の一端に触れることができた。

学生は、復興に向けた博物館の取り組みを肌で感じることで、博物館の果たす社会的役割を考え、機会ともなった。同大は、今後も被災地の復興への取り組みを支援する活動を積極的に展開していく予定である。